

平成30年8月

普及活動報告

～地域農業を担う新しい農業者が誕生～

亀岡市で実践農場修了式

(亀岡市：2日)



決意表明する研修生



普及センター所長から激励

普及センター所長、亀岡市農林振興課長から修了証書の交付が行われた後、技術指導者、後見人及び関係機関からの激励の言葉と修了生からの決意表明がありました。

激励の言葉として、「2年間自然災害で苦勞したと思うが頑張してほしい」「行政からの支援に甘えることなく頑張してほしい」「自分の得意な葉菜、果菜を一種類ずつ極めてほしい」等がありました。研修修了者は「地域の一員になれるよう頑張りたい」と決意表明をされました。今後も普及センターは、修了生の経営の安定に向けて支援を行っていきます。

場 所 亀岡市役所

出席者数 13名

亀岡市での実践農場（準備型）は、平成23年以降、今回を含め17箇所設置

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年8月

普及活動報告



普及センター所長から府研修承認通知を交付



関係者揃っての記念撮影

～地域農業を担う新しい研修者が誕生～ 亀岡市で担い手養成実践農場開始式を開催 (亀岡市：9日)

研修開始に当たって、交付式の後、関係者から研修生へ激励の言葉が贈られました。

技術指導者からは、「有機栽培で失敗させないように指導していきたい」、後見人からは「地域の仲間として一緒に頑張ってもらいたい」と大きな期待が寄せられました。研修生は「指導者から教えていただけることは完璧に習得したい」と決意表明されました。今後、普及センターは、確実な就農・定着に向けて支援していきます。

場 所 亀岡市役所

出席者数 11名

亀岡市での実践農場（準備型）は、平成23年以降、今回を含め17箇所設置

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年8月

普及活動報告

「味夢の里」秋冬野菜の栽培に向けて研修会を開催

(京丹波町：10日)



「これから作る野菜の栽培ポイント」と題して、直売所向けの秋冬野菜の品種や栽培ポイントについて説明しました。また、農薬を使用する際に、トマトとミニトマトのように別の作物に区分され、適用農薬が異なる場合があるものについて周知を図りました。

参加者は、秋冬野菜の生産を前に、メモをとりながら熱心に研修をされていました。

場 所 京丹波町「味夢の里」
出席者数 22名



味夢の里出荷者協議会会員数：約260名（平成30年8月現在）

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年8月

普及活動報告



普及センターから実演内容を説明



万能散布バーによる除草剤の散布

～小豆機械化栽培における雑草防除体系の現地試験～「万能散布バー」を使った条間除草剤の散布実演会を開催

(亀岡市：21日)

小豆機械化栽培においては難防除雑草である「ホオズキ類」が多発し、生育期の小豆と競合し問題となっています。そこで、農林センターとともに雑草の防除や抑制を目的に様々な現地試験を行っています。今回、亀岡市農業振興協議会水田部会の主催により、小豆の条間に効率的に除草剤を散布する「万能散布バー」を用いた作業実演会を開催しました。

万能散布バーで条間に生えている雑草に除草剤を散布できる状況は確認できましたが、小豆の草姿の特徴などから、小豆にも除草剤がかかってしまうことが認められました。農林センター及び普及センターでは、除草効果や小豆での薬害程度を確認し、実用性についての検討を進めます。

場 所 馬路町・河原林町

出席者数 30名

亀岡市の小豆機械化栽培面積は約50ha

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年8月

普及活動報告

第6回京都丹波就農サポート講座 ～鳥獣害対策について学ぶ～

(全域：21日)



パワーポイントを用いて解説



農林センター職員から防除柵の構造・特徴を説明

今回の講座では、鳥獣害の対策について獣種別の防除方法などを解説した後、場内展示ほ場で実物を見ながら防除柵の構造、特徴などについて説明しました。

「防除柵の設置間隔はどうすればよいか」「音の出る防除機械があるが、長期間にわたっての効果は期待できるのか」などの質問がありました。

普及センターでは引き続き、実践的な基礎技術の習得に向けて支援していきます。

場 所 農林センター

出席者数 37名

今年度の受講生は21～68歳（平均40歳）の30名。南丹管内の実践農場研修生、就農間もない農業者及び障害者就労支援事業所の職員が参加

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年8月

普及活動報告



伏見とうがらしの品質向上対策に向けて ～新技術研修会を開催～

(京丹波町：22日)

昨年度、青パオパオのハウス内張り展示ほを設置し、特に近紫外線量の多い7～9月に果実のアントシアニン発生に軽減効果が認められたことについて、普及センターから報告しました。また、製造メーカーから資材の特性等についての説明、全農京都から伏見とうがらし販売情勢の報告があり、その後、青パオパオを設置した栽培ハウスの見学を行いました。

参加者からは、青パオパオのような光質選択資材の効果発現のしくみ等について熱心に質問があり、各地域への波及が期待されました。

場 所 京丹波町下山

出席者数 31名

今年度は露地栽培約1aで青パオパオを展張した展示ほを設置

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年8月

普及活動報告



除草カルチによる作業



除草カルチ作業前



作業後

～小豆機械化栽培における雑草防除体系の現地試験～「除草カルチ」を使った条間除草の作業実演会を開催

(亀岡市：28日)

小豆機械化栽培で普及している狭条密植栽培は、中耕等による条間の除草作業を行わないため、雑草が多発した場合には小豆との生育競合が問題となっています。そこで、農林センターとともに雑草防除や抑制を目的に様々な現地試験を行っており、今回、小豆条間の土を引っかくように除草する「除草カルチ」を用いた作業実演会を行いました。

作業予定日が、台風20号のため延期となり、雑草が大型化したため、除草効率はやや劣りました。しかし、カルチの通った条間は雑草（主にスベリヒユ）が減って、条間がはっきり分かる状況となり、除草カルチの効果が認められました。今後、農林センター及び普及センターでは、除草効果の確認や生育調査を通じて、実用性について検討を進めます。

場 所 亀岡市河原林町

出席者数 10名

亀岡市の小豆機械化栽培面積は約50ha

京都府南丹農業改良普及センター